

# エリア ウェブ

**峡東教育事務所**  
 地域教育支援スタッフ  
 TEL 0553-20-2737  
 FAX 0553-20-2733

閲覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。この情報紙は山梨県庁のホームページでも掲載中です。  
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

## 「他人の不幸の上に，自分だけの 幸せを築くことはできません。」

昨年末に放映された事実をもとにしたテレビドラマ：「遙かなる約束」の中でクラウディアというロシア人女性が言った言葉です。

第2次世界大戦の終戦の中，ソ連から逃げる途中，離ればなれになった夫を日本で待ち続け，懸命に娘を育てる妻。一方，スパイの容疑をかけられ，日本に帰ることを断念し自殺まで図った夫。そんな彼を絶望の淵から救ったロシア人女性がクラウディアなのです。彼女は彼を必ず日本に帰すと決心します。長い年月が流れ，二人は結婚をします。しかしクラウディアは，日本の妻のことを調べ，彼に彼女が活着していることを知らせます。

帰国をためらっている彼に言ったのが次の言葉です。

**『他人の不幸の上に，自分の幸せを築きたくない』**

彼女は帰国の手続きをしにモスクワまで行きます。でも彼が帰国するための条件は離婚することだったのです。最愛の夫と離婚までして，彼を日本の妻のもとへ帰したのでした。彼と日本の妻はクラウディアに心から感謝をし，手紙のやりとりをし，その後日本に招いたそうです(実際の映像も流れていました)。



自分の幸せを求めるのは自然なことです。でも，最近のニュースを観ると，他人の不幸の上に自分の幸せを築こうとする事件が非常に増えてきた気がします。ライブドアなどの金融問題，耐震偽装問題，おれおれ詐欺，飲酒運転・ひき逃げ事故の多発，いじめ・自殺問題など，恐ろしい事件や問題が毎日のように茶の間に飛び込んできます。これらは，人々をだまし，ごまかし，隠し，傷つけて自分の欲求を満足させたり，ストレスを解消しようとしたりするものです。何か「人間の潔さ(いさぎよさ)」がだんだん失われてきているような気がします。

このような社会の変化の中で，最大の被害者は子どもたちです。大人社会の問題を子どもの社会問題に見事に映し出していると思います。特に，去年から今年にかけて大きな問題となった「いじめ問題」も，人の不幸の上に自分の幸せを築いていることではないでしょうか。違うのはいじめてる本人も，決して幸せではないということです。いじめを子どもだけの問題としないで，社会の大人の問題として真剣に考えなくてはならない時期に来ていると思います。

# 「いじめ育て」をしていますか？

ある本の中に次のような文章がありました。

## いじめは「いじめ育て」が原因。

兄弟や他人と比べて育てる。  
感情的に怒ったり、叩いたりして育てる。  
人より勝ったときにほめ、負けたときには叱る。  
仕事や家庭の悩みを子どもにぶつけながら子育てをしている。

- そんなことが全て「いじめをする子ども」に育てている。特に親の生き方が、子育てに反映する。
- (父親) 会社でいやなことがあり、酒を飲んでグチをこぼす。家で妻や子どもにあたり、時には暴力もふるう。
  - (母親) 子育てや近所付き合いで悩み、相談しようにも夫は残業や飲み会で遅い帰宅。ついイライラして子どもを怒鳴ったり、時には手を出したりしてしまう。

こうした親のストレスや不安が子どもに伝わり、少しずつ子どもは暴力的な子どもになっていくと言うのです。

いじめの問題が多く報道されたとき、「うちの子はいじめられていないか。」と心配した人は多いでしょう。でも、「うちの子はいじめられていないか。」と考えた人はどれくらいいるのでしょうか。



子どもに聞いたとしても「ぼくは手を出したり、悪口を直接言っていないよ」と言われ、「うちの子はいじめてない」と安心したお母さんもいるかもしれませんが、でも、クラスにいじめられて悩んでいる子がいるのに、何も感じない、何もしないわが子であっても、「よかった」と本当に思えるのでしょうか。

砂漠のような家庭に育った子は、サボテンのようにとげを持ち、人を傷つける子どもになります。

「やさしさ、思いやりの心」は自然には育ちません。親や教師、地域の大人がやさしい家庭や学校、地域社会をつくり、一つ一つ子どもに体験させ、教えていくことで豊かな心は育つのではないのでしょうか。

# 「あっ！もしかして いじめかも。」

〔家庭でのチェックポイント〕

学校の話がさけるようになる  
友達のことを話さなくなる  
登校時に身体の不調を訴える  
感情の起伏が激しくなる  
家族や物にあたりちらす  
寝つきが悪く、寝不足になる  
急に食欲がなくなる  
下校後の服の汚れや破れが目立つ  
持ち物にいたずら書きがある  
ケガやキズを負って帰ってくる  
電話を受けた後、落ち着かない  
突然「友達」に呼び出される  
人に物を貸すことが多くなる  
家からお金を持ち出す

〔早め早めの対応を〕

子どもの生活の様子や態度の変化に注意する  
何気ない会話で、親子のコミュニケーションを心がける  
親子の信頼関係に自信を持って、子どもとよく話し合う  
子どもの立場に立って、真剣に話を聞いてあげる  
子どもを守ってあげるという強い姿勢を見せる  
変化が見えた時点で、学校や教育相談室等に速やかに相談する  
他の保護者から情報を得る

# 学校と家庭と地域が連携して いじめをなくす！

## 明るく温かい家庭

あいさつ、笑顔、会話を増やす  
「愛情・自立・生命」を教育の柱に  
ガミガミ叱るよりほめて励ます  
子どもにやる気と自信を持たせる  
親子で何でも話せる関係をつくる  
学校や隣り近所の悪口は言わない  
心配事は早めに学校等へ相談する

## 安心して楽しく学べる学校

子どもが喜んで行き、満足して帰る  
子どもが楽しく授業に参加できる  
子ども同士で仲良く遊べる  
先生が真剣に話を聞いてくれる  
先生が子どもを観てつかんでいる  
全校で「いじめ反対」に取り組む  
家庭や地域・各機関等と連携する

## 育ったことに誇りの持てる地域

大人も子どもも笑顔であいさつ。会話も多い。  
となりや近所で声のかけ合い、助け合いをする  
わが子も、よその子も叱り、ほめる  
大人が子どもの手本になり、自信を持って生活する  
地域の人みんなが子どもを守ろうと行動している



## 峡東地域 子育て講演会

講師；文珠 紀久野 先生

(もんじゅ きくの)

山梨県立大教授

日時；2月22日(木)

13:30~15:45

受付 13:00~

会場；いちのみや

桃の里ふれあい文化館



(文珠先生を招いてのセミナー；h17)

対象；保育所・園，幼稚園，学校の  
教職員及び保護者等

《お問い合わせ》

峡東教育事務所 地域教育支援スタッフ  
；0553-20-2737

## 地域でやっちゃあ！子育て講演会 トーク&ライブ「夢の種まき」

講師；大野 実 先生

(おおのみのる)

京都美山高等学校長

日時；2月12日(月・休日)

1:00~12:00 受付 9:40~

会場；笛吹市スコレー1F

対象；子育て中の保護者等約200名

不登校，高校中退と挫折をくり返してきた少年時代。教師になった現在，オリジナル応援ソングを弾き，夢を持ち続けることの尊さを語る。

《お問い合わせ》

NPO 法人 HappySpace ゆうゆうゆう  
；055-261-0218 hiroba@yuyuyu.org

# こどもの年中行事



## 「敬老の日」

親が祖父母に感謝の形を示せば、子どもも自然と親に感謝をするようになるでしょう。感謝の気持ちは日々の生活の中で芽生えるものですが、その日は特にはっきりとした形で表すことのできる節目の日です。同じようなものに「父の日」「母の日」、「両親や祖父母の誕生日」「勤労感謝の日」などがあります。

## このほかにも・・・

七草、どんど焼き、春と秋の彼岸、七夕、土用、終戦記念日、防災の日、十五夜、八口ウイン、冬至、クリスマス、年末の大掃除や年賀状書きの日々、憲法記念日や体育の日などの祝祭日など。



これらは、みんなが知っている当たり前の行事です。でも、家族全体の行事になっているのでしょうか。忙しいといっていないがしるにしていけないのでしょうか。

大切なのは、子どもと一緒に行事を楽しむことだと思います。夏休みや冬休みの家族旅行のような大きなイベントも大事ですが、日々の暮らしを楽しむことが楽しい子育てにつながり、豊かな情緒ある子どもを育てていくのではないのでしょうか。四季折々の行事には、上手に育てるのではなく、自然とうまく育っていく鍵がいくつも隠されています。(家族を思い、健康を願い、友情を育み、地域と触れあい、夢を育み、命の尊さを知る、などなど)。

そして、これらの行事を通して、親も親として成長していくのだと思います。

生活の中にある行事を見直してみると、意外とメリハリのある生活ができそうです。季節感のある生活も十分楽しめそうです。

日本人の生活は、四季の移り変わりとともにありました。四季を感じられることは日本人に与えられた特権でした。しかし、今、日本人が求めている「快適な暮らし」は、季節感を排除する方向に向かっていっているように思います。

冬は暖房、夏は冷房が行き届き、食べ物も、一年中、何でも手に入るようになったのですから、「季節感がなくなった」と嘆くのはわがままかも知れません。

でも、私たちの祖先は四季折々の行事を通して、豊かな心を育んできました。この精神的な豊かさを子ども達にも味わわせてあげたいと思います。

## 「節分」



「鬼は外、福は内」と言って豆をまけば、鬼についての知識なんかなくても、得体の知れない悪い力を追い払い、家族を守り繁栄させていく一員としての自分に喜びを覚えるでしょう。外界に対して畏れを覚えながらも家族愛が育ちます。



## 「終業式」「始業式」

過去を振り返り、未来に向かって夢を育む日です。学校や子ども任せにしないで「お父さんはこう思うよ」とか「お母さんはこうなってほしいな」という願いを込めながら相談にのりたいものです。押しつけはいけませんが、期待されていると感じることは、大事です。大晦日や正月も同じように反省し前進する機会になります。

夢を語り合いたいものです。

## 「誕生日」

「あなたが生まれてきてよかったよ」「家族のかけがえのない宝だよ」という気持ちを伝える日です。子どもは、誕生日や子どもの日などを通して愛されていることを再確認しながら、すこやかに育っていきます。